

令和4年度 第1回行政改革推進委員会 会議記録

■日 時	令和4年6月16日（木曜日）13時30分～15時30分			
■場 所	与謝野町役場 3階 会議室2 及び オンライン			
■出席委員	◎伊藤 伸 委員	○西川明宏 委員	○山添謙三 委員	浅利美鈴 委員
	京崎 操 委員	注) ◎会長、○会長代理		
■事 務 局 (企画財政課)	小谷貴儀 主幹	渡邊稔之 主任	廣谷章彦 主任	

※伊藤委員、浅利委員はオンライン参加

開会（午後1時30分）

会長あいさつ

今日の大きいテーマは行革大綱の昨年度の進捗状況のチェックということになるかと思います。町長が再選されたあと一報もらい、行革に力を入れていきたいと言われておられました。アクセルとブレーキをしっかりとメリハリをつけてやりたいというお話をされていたのでそういう意味でも、更に委員会も強化をしていきたいと思えます。

(1) 令和4年度の与謝野町行政改革推進委員会の予定について

令和4年度行政改革推進委員会の予定を事務局から説明（次第参照）

(2) 第3次与謝野町行政改革大綱の進捗について（令和3年度取組状況）

-----（事務局から資料1-1、資料1-2の説明）-----

（伊藤会長）ここからの議論は全体的なところを含めてになるかと思います。今、ご報告があったところのご意見ご質問ありますでしょうか？

（伊藤会長）私からお聞きをすると他全部一緒ですが、コロナによってなかなか予定通り進まなかったのはある意味しかたがないなと思えます。その中で、最初の方の財政面は数字が出やすく評価しやすいと思えますが、後半の方になると基本的には検討調整が中心になっているということで、コロナで仕方がなかった部分もあると思えますが、より今年度が重要になってくると思えます。渡邊さんご自身の担当の見解でよいのですが、今一旦ストップをしている、例えば最後の多様な住民との関りであったりとか行財政基盤の確立の部分であったり、コロナがなかったらもううまくいったなとか、コロナをダシにして、本当は進められるものが進んでいなかったって自治体もあるので、その辺の全体的な見解をお聞きしたいと思います。

（渡邊主任）少なくとも下水道料金の話や公共施設の料金の話につきまして、検討に留まったのは、コロナ禍でなかなか議論が進められなかったことが一番大きかったかなと思えます。財政の話になると、逆にそのコロナの影響で国もかなり財政出

動している部分もあるので、全体的な収支などに関しては、自治体にとっては助かった部分もあるかなと思います。

(小谷主幹) 基本方針の 2 番ですけれども、こちらの方は感染症対策ということでどうしてもできない部分もありましたが、自己評価にはなりますが、比較的やってきた方ではないかなと思います。それは無作為抽出をして住民の皆さんに集まってもらった会議ですとか、オンラインで意見交換をやってきたということもありますので、コロナでこの分野が進まなかったとはあまり感じていません。

(伊藤会長) ありがとうございます。確かにそうですね。今、中間年になるのでここ 2 年間でどこまでやるか、もしかしたら公共施設のところなどで変更する必要があるかなとも思います。その辺は絵に描いた餅にならないようにすればよいと思います。意味のある計画であり、意味のある評価をしないとイケないので、コロナで 1 年間ストップしていたことによって、目標などを見直さないといけないうことを考える場はどこにあるのでしょうか？

(小谷主幹) それぞれの項目によって多少違うかもしれませんが、基本的な考え方をリードするのは、私達の企画財政課だと考えていて、ここが中心になって進めていくという方針だと思っています。具体的には公共施設の関係だとか予算の権限を持っていますので、そのあたりは実際に進める準備はできていますし、後半の基本方針 2 の方も先ほどから調査実施と出ていますが、次にどうするのかという話は既に進めていますし、広報広聴も私どもが持っています。そういうことでウエイトは企画財政がすごく大きいですし、私達が中心になって引っ張ってきたいという考えです。

(浅利委員) 細かな点ですけれども、資料 1-2 とかで予算削減した話がある中で、ふるさと納税のところが増収とあったかと思いますが。特に企業版ふるさと納税で、継続しそうだとか、若しくはもっと増えそうだとかそのあたりはどのようなものなのでしょうか？

(小谷主幹) 昨年度初めて企業版ふるさと納税の実績が出ました。具体的には、旧加悦鉄道の SL2 号機関車の上屋を建てるという事業がありまして、それに企業版のふるさと納税にある会社が手を挙げていただいたということなんです。寄付していただいた企業は元々この SL に関連のある地元の会社の親会社でしたので、企業の方から、寄付がしたいというような形で申し出いただいたのが最初のきっかけです。どちらかというと特殊な事例かもしれません。こういうことをやりたいので寄付してくださいというよりは、こういうことやるんだらうち寄付しますよという事例で、すごい大きな額をいただきました。今年度以降ですけれども、今ご質問いただきました、続きそうなんですかということですが、基本的には事業に共感を得てもらえるような打ち出し方がすごくポイントだなと思っています。今年はそこがまだ打ち出せていなく、毎年いろんな打ち出し方があるんだろうと思いますが、打ち出し方の工夫を引き続きやっていくことによって、企業版ふるさと納税を集めていきたいなと思います。いきなり企業を訪問して寄付してくださいとはなかなか言いにくいと町長も言っていて、アプローチの仕方ってやはり工夫が要るんだろうなってことを思っています。

(浅利委員) ありがとうございます。基本的に事業にそのまま使われたということですね。紐付きということですがそこそこの金額ってところでいうと、ちゃんと力を入れていると思います。

(山添委員) この令和 3 年度にはコロナということで国からの普通交付税が大きく交付された。その分でいわゆる減債の積立金を積み増せた。預金がちょっとできたから自由に使うお金が少しできた。それはそれで良いとするんですけれども、今後それが

どうなっていくのかということ、実際に下水道関係とか値上げするのはちょっと待たみたいなお話もあるんですけど、老朽化っていうのは絶対ストップできないと思いますし、いつになったらそれをするっていう明確なビジョンを出さないとやはり後にツケを回しているだけの話になってくるので、そのあたりは明確に出してもいいと思います。

(渡邊主任) 下水道につきましては今料金改定について動いているところです。ただ、仰るように平成の初めから合併ぐらいまでかなりの勢いで下水の敷設を行ってきましたので、その分の耐用年数が45年として、あと20年、30年ぐらいで完全にその耐用年数が来たときに、全て更新するのということもありますが、そういう状況にはなってくると思いますし、料金改定ももちろんですし、それから企業会計への移行をすることによってやはり下水が非常に苦しいというところは、広報でも今、動きを伝えていきます。今の状況ですが、下水の地方債残高はピークからだんだん下がっていく見込みなので、この時期に次回の更新についての方針として、人口減少などで必要がない地域というのも出てくるかもしれないので、当初の全ての面にしなければならなかったところから、同じように更新するのということも、考えなければいけないところではあると思います。仰るように、下水の負担がどのように推移していくのかという明確なビジョンが、国からは経営戦略というふうに言われてますけれど、ある程度それは料金がこれだけ改定すればこうなりますというので、そこを現実的な数字ではなかったりするのでもう少し現実的な数字の上で町としては下水はこれだけの負担で、これだけお金がかかりますよということは、町民の皆さんにも共有をしていかないと、おそらく皆さんもご存知ないと思うので、そのあたりのことは一緒に考える機会というのは設けるべきかなと思います。

(山添委員) 細かい数値は忘れましたが、ここ20年で北丹で空き家が一万戸以上になっていると思います。その分の利用料が入ってこなくなるという話で、他が負担をしなければいけないという話ですよね。やはりそのあたりのある程度緻密な数字を作っていないと、そのあたりが結局耐用年数の問題もあるかと思うんですけど、ツケを後に回してしまう。だから公共施設の利用料の話もそうですけれど、結局それは誰がいつ払うんだということになってくるので、そのあたりのビジョンっていうのはもう少し明確に打ち出すべきかなと、苦しいことですがやはり言うておかないといけない話だと思います。

(京崎委員) 人件費のところの取り組みについて、業務量に関する調査を実施したとしてもその時点で担当職員が従事している時間に過ぎずというこの件はその通りだと思います。人件費の見直しをする場合、実は私、昨年度にもものすごくシビアな取り組みをしました。一人一人の業務を洗い出して、そして一つ一つに関して必要な業務なのかということを確認したところ、よく見るとこんな資料を作らなくても他の資料で間に合うのではとか、そうすることによって、無駄な資料の作成とか、やりとりをしていた無駄な時間というのが非常にたくさん浮き上がってきました。そのような見直しをしないと、今持っている仕事で何かないですか？のような感じでは絶対駄目です。私共の場合は経営陣が関わって役員がその部署について責任を持って見てくださいうようにしたり、1人の方を専任して見直しました。そうしましたら本当に無駄な資料を作っていたり、無駄なやりとりをしていたのが浮き上がってきたので、それはもう一切やめましょうということにすると本当に業務が減らせました。それで業務が減った分、もっと前向きな、金融機関でしたらお客様へ伺っているような提案をするっていうようなことに振り向けることができました。ですから公務員でも同じようなことが言えると思います。もちろん人件費を減らしていくっていうこともすごく大事なことで、他のサービスへ向けていける部分がないかなという見直しは非常に大切なことだと思うので、このやり方について、ちょっと甘いという気がしましたので、もう少し業務の洗い出しをしっかりとされたほうがよいと思います。

(小谷主幹) ありがとうございます。全くその通りだと思います。やはり人を減らそうと思うとそれにかかっている時間を減らして

いくとか、なかなか事業が減らせていないので、業務にかかる時間を減らすということは仰る通りだと思います。職員の中でもそういうことを言う者もたくさんいますが、それが組織だってできていないということなので、京崎委員から教えていただいた組織だってしっかり取り組んでいくことはすごく大事なことだと思います。それからもう一点は今年度は業務改善をしていこうという年にしていて、企画財政課中心で動こうとしていますが、ちょうど国がデジタル庁を作って、デジタルを生かした業務改善を頑張ろうということになっていますので、デジタルの視点を入れながら、どのように業務改善、業務改革ができるのかというプロジェクトを来月から動かそうとしていますので、今いただいた意見を参考にしながら、効率的な推進ということをやりたいと思っています。

（京崎委員）今までペーパーでやっていた稟議書を電子稟議ですれば、もう紙は増えませんし、それを綴じる人もいらなくなりますし、系統立てれば、ぱっと見えますし。お金のいる部分はあるかもしれませんが、そのシステムは非常に便利です。

（伊藤会長）京崎委員の話で業務の洗い出しをするときに、幹部職員が引っ張ってという話でしたが、そこは外部のコンサルを入れたのでしょうか？

（京崎委員）内部でやりました。理事長命令であなたは事務の見直し担当ですよということで理事長権限を与えて、その職員が徹底的にその部署を見ました。担当の役員と特命課長が共同でやりましたら半年間ぐらいでずいぶん見直しことができました。

（伊藤委員）これは与謝野町に限らず、特に行政は事業を減らせない代わりに業務をどうやって減らすか、本当に大きい課題だと総論でみんな分かっていながらも実際一步踏み出せていないところばかりだなと思っていて、要は、日々の仕事が忙しいから優先順位がどうしても落ちてしまう。忙しいという愚痴だけが出ている状態がどうしても続いているなと思っていて、やはり今のお話のように、組織としての意思でやってしまうということが、とても大切なんだろうと、改めて京崎委員の話を聞いていて思っていて、去年この話を聞いたときに言ったように思いますけれど、ぜひ京崎委員に1回、与謝野町の中に入れていただいて、どうやって業務見直しをするかというトレーニングをしてもいいのではないかという気は本当にします。西川さんいかがでしょうか？

（西川委員）今の話ですと、うちの場合は会社が小さいので、その役を私がします。一番業務がわかってるものが、新人ないし今やってるものについてすると、何のためにこれをしているのかとか、もっとこうしたほうがいいのかというの一杯出てくるんです。そういうことを積み重ねて業務改善できていると思うんですけど、役場の場合、それをするのは課長だと思います。ですから11ページからいきますと、適正化計画を具体的にどのように策定するのかということであったり、業務量の削減や業務の効率化は誰が検討するのかという、やはり課長ですよ。次のページでも令和3年度の状況を見ますと、業務内容が大きく異なり比較することができないからやりませんということですけど、これでは人が多いのか少ないのか、何を基準に判断しているのでしょうか。業務量が多ければ1人で無理だから2人でやりなさいとか、少なければ1人でいいだろうとか、そういう判断をするのは、これも課長ですよ。退職者数の見込みを算出して採用計画を策定するというのは、増えたり減ったりしたものをただ補充するだけの話であって、業務効率などは全然評価しないということになるのではないかと思います。京崎委員が言われたようなことですが、例えばもう少し簡単な方法としては日報を書かせて誰々がどういう業務をしているのか、その程度のことぐらいは把握しないと、職員数の適正化は絶対に図れません。だから、適正化が必要と言いつつ、何をどうするかという具体的な計画が全然思いついていないのではないかなと思います。もっともっと具体的に誰が何をどうするかというところまで落とし込まな

いと、行動までは行きません。

(西川委員) 1 ページに戻りますと、山添委員が言われましたけど、臨時的に交付税が入ったということで、繰上償還できたと書いてありますが、結果としてはそうかもしれないけど、これは行政改革ではありません。臨時的な追加交付金がなかった場合にどういう結果だったのか、そういったこともしっかり検討しないといけないので、分かったら教えてください。それから 4 ページの関係ですが、これは昨年と比べると、歳出規模は 880 万円ほど減ったけれども、繰出金は 2 年度から比べると 2,164 万円増えたということは、令和元年からすると 4,400 万円ほど出るとということですよ？

(渡邊主任) 2,280 万円というのは歳出規模であって繰出金ではないです。減ってましたが、2 年度は増えました。

(西川委員) ということは悪化しているということですよ。このあたりはやはり非常にここのウエイトも大きかったと思うので、コロナで大変なのもよくわかりますし、私も仕事柄下水道をたくさん使わせていただいているので上げてもらおうと困るんですけど、そんなこと言ってもらえないと思うので、これも早急な対応が必要かなと思います。それから、5 ページですけども、これは年間 10 億円規模の借入金を維持するということですよ？

(渡邊主任) そうです。今までが年平均 16 億円を借りてきていたので、それを減らしていこうということです。ある程度合併後の投資事業も収束してきたということもありますが、それ以上の投資は極力抑えて、公債費の抑制の方針が財政計画にあります。

(西川委員) 毎年例えば 10 億円を借り入れて、毎年いくら返済しているのでしょうか？

(渡邊主任) 4 年度だと 16 億円、元金で 15 億円ぐらいの返済です。残高としては 4 億円か 5 億円ぐらいの減少になります。

(西川委員) そのあたりのやりくりの仕方だと思いますが、何とかもって借入をしないようにして交付税の関係で有利な起債とかもあるのかもしれませんが、それも含めて、もう少し精査する必要があるのではないかなと思います。

(渡邊委員) こども園のように集中的にしないといけないものもありますが、そういったものがない年に関しては、浸水対策だとかそういったことは恒常的にしていかななくてはいけません、この期間にあれもこれもはできないだろうという取捨選択はしていかないといけないということなので、10 億円とは言っても抑えるところは抑えてということは、当然やるべきだと思います。

(西川委員) だから毎年 10 億円で計画すると 10 億円借金してもいいんだと思ってしまいます。そうではなくて、やはり少しでも減らしていくようにという努力しないといけないですし、計画があつてしないといけないものについてはしないといけないんですけども、した方がいいけどもまだなくてもいいことだっていっぱいあると思います。これは人の考え方にもよるので、例えば今話題にもなっています、野田川のこども園だって早くした方がいいことではあります、すぐにしないといけないものでもないと思います。やはり借金をしてそれが大きな投資ができるような体制になってからでも遅くないのではないかなと思ったわけです。10 ページですが、新規事業の評価手法の構築で検討に留まるということなんですけど、しないといけないねと言ったぐらいのことで、おそらく全然議論ができていない。もう何年も前から現場の方でいくらでも新規事業が増えて大変なんですといったことがありますが、どのように評価するのかっていうことを早く決めないといけないのではないのでしょうか。もう何年も経っていて、現場は困っている、それで人を減らせない、仕事が増えて困るって言われているんでしたらもっと早く議論したらいいと思います。何が忙しいのか知りませんが、先送りしてるみたいですけども、そういったことを感じました。それから 13 ページの公共施設の関係で

す。これも非常に難しい問題で進捗管理を行う専門的な部署がないということなんですけど、そうでしたらまちづくり本部会議でされたいかがでしょうか。進捗状況をしっかり管理しないといけないとありますので、いろんな課長さんの目で見てください、意見をもらったりするのがいいのではないかなと思います。それから 14 ページで具体的に 2 施設、6 施設とありますが、13 施設のうちの施設ができてどれができてないのか教えていただきたい。19 ページの令和 3 年度のところでですけども意見交換に職員も参加して、コロナとはいうもののインターネットを使ってできましたということなんですけど、この議論の機会がゼロになってるんですけど、それはいいです。それから 20 ページですね、3 課による協働体制が最適なのかという問題認識の共有に留まっていますとありますが、5 分か 10 分集まって話せば問題認識の共有はできるのではないのでしょうか。ということは、していないのと同じことだと思います。そのあたりがもう少し行政改革大綱がスムーズにっていないのかなと全体的に思いました。

(小谷主幹) ありがとうございます。たくさんご意見をいただきまして、全体的に感想的なことになりますが、その通りだなということ、委員の皆様が仰っていただいているように、ちょっと甘いですよということなんだろう受けとめています。特に、計画を立てた後に先ほど西川委員が仰いましたが、誰が何をどうするんだということをしかりと決めて、それを実行する大切さっていうのはやはりそうなんだろうと思います。そこは今後引き締めて企画財政課所管ですので、しかり進めていきたいと、リードしていきたいと思います。

(渡邊委員) 公共施設ですが、13 施設の中では、あまり進捗しなかったり 4 年度にすることになったりというものが、実は多くて、3 年度に取り組めたのは、つばきこども園の新設、木工加工施設や椿育苗施設の廃止、道の駅のトイレについても廃止しました。桑飼小学校は解体しましたし、それから冷凍米飯加工施設につきましては、第三セクターに譲渡したということです。例示で示しております 13 施設の中ではやはり野田川の保育所関連はまだ進捗していないということと、あと福祉系の施設につきましても、まだ検討段階で進捗はしていないということになっていて、平林キャンプ場とか、それから加悦社会福祉センターにつきましては今年度予算化して、解体することになっています。それから岩滝の第 4 分団の車庫は既に 2 年度に譲渡が終わっていますし、岩滝の第 1・第 2 分団車庫につきましては、統合に向けて、期間内に進捗させるという形になっています。

(小谷主幹) お金の関係で全体的なお話でいきますと先ほどの借金の話だったと思うんですけども 10 億円と決まっているから、絶対に 10 億円を変えなくてもいいのではという話があったと思います。結局全体の予算の中で今、義務的な予算の部分と投資的な予算の部分があるわけなんですけれども、その投資の部分というところをやはり優先順位をつけて毎年度どうやっていくのかというのが大事なところだと思っていて、ちょうど今、公共施設のデータを集めているところで、ついこの前、せっかく公共施設のデータを集めるのであれば、インフラも含めて今後向こう何か年か各課の思いでいいから、何年に何をしようと思っているかを挙げて整理したらどうかという意見がありまして、概算でもいいから数字で出してもらいました。すると、やはり毎年度すごい額が出ましたので、これは絶対に一度には無理だよということを書いていかないと駄目だなと思いました。じゃあどうするんだっていうことを、住民の皆さんも、議員も一緒に考えていくという形がいいだろうということです。今度公共施設のマネジメント委員会を新しく立ち上げますが、やはりこの話をしないと公共施設をあれもほしいこれも残せではもう立ち行かないので、同じ情報で同じ立場で議論をさせていただきたいと、今の進め方として考えております。それから、公共施設全体を見る課がないというようなお話で、今、私のところがやろうとしていますけれども、やはりそういう係なんかがあった方がいいだろうというのは、今、所感としてもっています。最後の協働の方ですけども、公民館活動は教育委員会がされております。自治区の関係は総務

課がしています。地域活性化コミュニティ補助金みたいな感じのものは企画財政課がもっています。やはりずっとここ数年、3課が相談しながらやっているんですけど、もう1課で本当はやるべきなんだろうなって話はしております。具体的にそうしてはいかがでしょうかという提案を、課長にしたことがあります。教育部局と町長部局との壁があるんですけど、やはりよく似た業務は一つの課にまとめてそれこそ効率化を図るという、意思決定を早くするという効果もありますので、いろんなことが動きつつある状況ではありますし、漏れている部分もあるかもしれませんが、何とかいい方向に向かうように頑張っているという状況です。

(渡邊主任) 財政収支の話です。まだ決算が最終はありますが、交付税の増額が2億円ほどでしたので財政調整基金の取り崩しが無かったという話であるんですが、その他に財政調整基金以外でも、公共施設の解体、桑飼保育園だとか桑飼小学校だとか、それから加悦社会福祉センター、本来は3年度事業で予算計上して4年度に繰り越すんですけども、それらにも他の基金を充ててたのですが、それらも全て返したという形なので、それも2億円程度ありますので、それがなかったとしても今回はある程度財調の取り崩しは無かったかなと思っています。ただしそれもコロナの関係の交付金なんかも入っていますので一概には言えないんですけども、財政計画にお示していますように、令和6年度ぐらいまでは公債費の負担が非常に重たい、CATVセンターの拡張事業の公債費がそこまで続くので、これが終わった段階である程度、予算段階では難しいですけども、決算段階で財政調整基金を取り崩さずに行ける通常運転にしていきたいということで、公債費の借入額の10億円以内というところでまず抑えていきたい、それから下水の繰出金が多いので、その期間はある程度財政出動は一般会計の方も選択していかなければいけないというのが財政計画の趣旨ですので、今回山添委員、西川委員からもご指摘いただいたように、かなり国からは頂け、特別交付税も雪が多く降って除雪経費が多額になったため例年よりも多く交付されたという背景もありますので、今後、やはり財政計画の軌道に乗せていくためには、もう一度引き締めながら、進めていかなければいけないというのが現状かなと思っています。

(西川委員) さきほども言いましたけれども、臨時的に入ったもので、たまたま目標達成できましたということではなくて、やはりそれが無かったとしても、目標が達成できるような体制にしておけば、臨時で入ればなおいわけ、そのようにしていくと少しずつ改善していくのではないかと思います。

(伊藤会長) 今日、最終的に答申の話もありますので、今の話は答申の内容に影響するかなと思いますが、大きいトーンとすればコロナの影響等によって進捗できていないところはあるが、コロナに関わらずできる、進められるところがまだ進んでいないところ。それはつまりはスピード感が遅いのではないかと、毎回同じような指摘を繰り返している部分があるのでここについての指摘をしておく必要があるのかなと感じました。あと、後半にあったマネジメント全体の課、組織だつてということになるかと思いますが、やはりそういう司令塔的に強い権限を持って進めていくところももう一つの答申のポイントになってくるのかなと、このあとの事務事業評価になるのかなと思います。資料4には去年の4月の段階での答申が3項目出ているかと思います。同じような話なんですよ。もう一つが業務の見直し業務管理についても答申の中でも触れておく方がいいかなと思います。

(3) 事務事業評価の取組について

----- (事務局から資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料3の説明) -----

(伊藤会長) ありがとうございます。去年行った評価の結果と今年度の進める方を両方合わせて説明をいただきました。ご質問ご意見ある方いらっしゃいますでしょうか？

(山添委員) 資料 2-1 の 6 ページ。337 万 5000 円予算上減りましたとあります。数字としてはこれでいいと思いますが、これが減ったことによって、逆に、町民の方などにこの事業にデメリットが生じていないかというチェックというのはされるのでしょうか？

(小谷主幹) これは各担当課から出てきたものを単純にまとめただけというのがまず一つあります。まとめるタイミングが今になっているということがあるので、事業としても改善した結果を聞いているだけになっていて、それに対してしっかりチェックしたのかと言いますと、現実的にはそこまで踏み込めていないという状況です。

(山添委員) です。結局私達の目線で机上論になってしまいますが、これがやはりどうなんだということで、ご意見させていただきました。その結果がこれだと思いますが、これが果たして本当に意味のあるものだったのかというところの部分についても、やはりチェックを担当課の方なりにしっかり指示を出しておいた方がいいのではないかと思います。一方通行だと誰のために何のためにということになってくると思いますので、そのあたりが重要かなと思います。コスト意識は常に持つということはもちろん大事ですけど、それが果たしてそれでよかったのかどうなのかということですね。

(伊藤会長) 京崎委員いかがでしょうか？

(京崎委員) アンケートを取られることによって、職員さんの意識が自分たちでやらなきゃならないとか、見直しをやらなきゃならないという意識付けにはなったんでしょうね。そういう意味ではよかったのではないかなと思います。

(西川委員) 前にそれぞれの課長さんと意見交換しましたよね。そういった機会というのはないのでしょうか。現場の方の声とか、こういって困っているんですとか、なかなかうまくいかないですという意見がもしあったら聞きたいですね。そういう機会はまた別途、皆さん忙しいので調整が難しいかもしれないですけど、お願いしたいと思います。

(渡邊主任) 前は行革大綱を作るタイミングでしたので、各課長・主幹が大綱の策定にも関わっているという体裁だったので委員会の皆さんとも会話を、ということでしたが、大綱の中間期になるので、何かしらしてもいいかなと、これも相談していきたいと思っています。

(西川委員) ここでは机上の話しかできないので、現場の方で何が大変なのかということを知りたいですね。

(伊藤会長) 廣谷さんに聞きますが、観光にいたときには事業評価にあたったことはありましたか？

(廣谷主任) 直接の担当はありませんでしたが、別の職員の担当業務が当たったときに説明者側としてサポートに入っていました。

(伊藤会長) 先ほどアンケートデータの中で、事業評価が当たった人はある程度効果を感じてくれているんだけど、関わっていない人はネガティブな評価になっているという話だったかなと思うんです。実感としても、だからそもそもこの事業評価というのが、普段、同世代で話をするときに出てくるぐらいの認知度になっているんだろうかということが一つと、出ていた場合に、やはり実感としてみんなネガティブな雰囲気なのか、やはりどうしてもアンケートとなると形式的に答えてしまうことがあるので、実態として西川委員のお話ではないんですけど、生の声としてどんな雰囲気なのかを教えていただければと思います。

(廣谷主任) 非常に言いづらいことですけども、私の周りの職員での話にはなりますが、ネガティブな意見の方が多いように思います。元々事務事業評価自体が 3 年前ぐらいからの取組でゼロから始まったことなので、言い方が悪いかもしれませんが、

余分な仕事が増えたという意識の方がまだ多いのではないかなという感覚です。

(伊藤会長) 今のご意見こそがとても重要なんだろうなと思います。これは与謝野町に限らず、他の市町村でも事業評価をやってみたら、ポジティブもしくはニュートラルというわけではなくて、やらされ感になってしまうところというのはどうしてもある。だからこそ、そういう評価のスタイルを変えなくてはいけないと、これは我々の委員会の中で考えなくてはいけないことだと思います。今年度から次のクールをやるという意味決定をされているからこそ、今度は事務局である廣谷さんのことになるかもしれないんですけど、同じことをやったらきっと今のこのフラストレーションがさらに溜まるのだと思います。みんなが負担のない作業をやるのであれば、そもそもどちらでもいいような話になってしまうので、負担があったとしても効果を感じられる作業にしていけないといけないと思います。気を付けないといけないのが4年目になってただでさえそういう雰囲気があったら、形骸化しそうだったらもうある意味今年度やって止める、途中で打ち切るということをやらなくてはいけないと思います。そこは事務局としてもぜひ危機感をもっていたきたいと思います。

(西川委員) 前回のアンケートでも同じような話がありましたが、一番はもしかすると町長かもしれないのですが、やはり身近な課長が、この事務事業評価の必要性っていうのを現場で浸透させるぐらい熱く語っていかないと浸透しないと思います。うちの小さな会社でしたら、まずは僕です。社長が常々から、この仕事は何のためにしていて、こういうやりがいがあるんだ、だから君達はこうしてほしいんだ、この方が楽しいでしょ、と熱弁しないとなかなか伝わらない。事務事業だって、ただ押し付けられて、ただ単にこなすだけで、そんな仕事は楽しいですか。まちづくりのためにこの事業をするのであれば、自分で考えてもっとこうしたいほうがいい、お金を使わなくても効果があるのではということを考えて、それを実行した方が楽しいのではないかなという話を、課長が現場の上長として部下に常々から話をしたりとか、部下の不満だったり、疑問だったり聞いて、それはなこうなんやっていうふうな話をするという環境を作ることが、まず必要ではないかなと思います。だからそういうことをしていけば、いちいち現場の方が不満なんかはたぶん言わないと思います。こういう時代ですので、コミュニケーションを取りにくいとは思いますが、そういうコミュニケーションが取れるときには、行革の事務事業どう思うとか聞いてですね、実はよくわかりませんとか、必要ないと思うんですけど、とかいう話は、そう思うけど実はこういうことなんやでという話ができるような、そういう場を一つでもたくさん設けることで、アンケートであった意識が少しずつ変わっていくのではないかなと思います。

(伊藤会長) 元々3年前に始めたこの事務事業評価の目的を改めて読み返すと、これは職員意識改革が一番中心だったということを考えると、これ残念ながら今のご意見を含めて実現していないと言わざるを得ないし、それは責任が我々にもあると思っています。ですので、やはり次のクールについてはそこを本気で変えていこうにしないといけないということは答申の中で少し触れた方がいいだろうと感じました。やはり大変だけどよかったという感想をどう作るかですね。

(西川委員) そこに何かやりがいを感じてもらえばいいんですね。

(伊藤会長) 本当にそうです。先ほど西川委員が仰った担当レベルのコミュニケーションというのはまさにそういうところではないかと思っています。どうしても企画財政課との話しかできないと現場のことが伝わりにくい部分があるので、そこはぜひ定期的にかお忙しいですが機会を作っていただけるとありがたいなと思います。あと町長を引っ張り出さないといけないのかなと。やはり見えないような気がするんですね。他の自治体に関わっている中でうまくいっているところを想像すると、やはり首長が前面に立って、これはもう確か1年目とか2年目からずっとお話ししていたかもしれないと思うのですが、さっき挨拶で申し上げたように町長はしっかりとやりたいという思いを持っておられるので、もしかしたらそれをしっかりと具体化をするところが事務局に今度求めら

れるのではないかと思います。もしかしたら外部評価のときに、町長に全部出てくださいということも必要かもしれないし、こういう話を町政懇談会とかで、どんどん話をしていくということが必要なかもしれない。この2年間はなかなかコロナ対応で行革とか財政改革の優先順位を上げられなかったから負担感ばかり積もっているものを逆に変えていくということが必要なと感じています。いかがでしょうか？

(小谷主幹) そうなんです。僕と渡邊が3ヶ年伴走してきた感想を代弁いただいたのかなと思いました。第2クールにいいよ入るということで先ほどからもう少し違う手法でいろいろと真剣にという話があったと思いますので、事務局としまして、今までではない新しい入り方、やり方みたいなことも考えながら進めていきたいなと思っています。この結果が前半の話の業務改善にも繋がる話だと思いますので、これは必須の業務として皆さんで進めていきたいなと思います。

(4) 答申について

(伊藤会長) 4番目の答申について、事務局からあれば。

(小谷主幹) 次第の答申について、6月をもってこの任期の委員会が終わるということで、この区切りで答申をいただきたいと思います。資料4の1枚目が諮問の文章で大きく分けて三つあります。一つ目が行革大綱に関すること、二つ目が事務事業評価に関すること、三つ目が行革マネジメント全体のことについて諮問させていただいてまして、毎年度区切りのタイミングで答申いただいていますので、一定答申もまとめていただきたいと思っています。

(伊藤会長) さきほどお話したように、僕が今日の話も含めて1回たたき台を作ってみなさんに報告したいと思います。基本的にはこの三つに対応する形から、今日出た意見で十分答申は出せるのではないかなと思っています。答申を出すタイミングはいつまででしょうか？

(小谷主幹) 出来ましたら任期中にお世話にさせていただきたいですし、またその答申のやり方ですが、会長がここに来ていただいている形はなかなか難しいのかなと思いつつ、その方法も決めていただきたいです。去年は、答申をいただいて代理で事務局から渡すという方法でした。

(伊藤会長) 提案ですが、事務的に答申を出すのではなくて、6月に現地に行くことはできないので、例えば、西川委員とか来ていただける方に実際、町長に手渡しをしていただいた上で、オンラインで町長にリーダーシップが必要ですよということを言いたいなと思います。

(小谷主幹) そうしましたら日程調整をさせていただきまして、かつ、オンラインで伊藤会長にも入っていただいて、答申を行うということで山添委員と西川委員との調整を事務局でさせていただきますので、よろしく願いいたします。

(西川委員) 資料1-2で全部はしっかり見れていませんが、事務事業の見直しの内容と効果ということが書いてありますが、決まった幅で説明を書かないといけないので、説明不足ということもあるのかもしれないですけど、内容があまりよくわからないようなことがあって、そういうのはしっかりと事務事業評価がされてるのかなと思いましたが、その効果額が適切なのかなというのは、疑問に思うことがあるので、そういったことをこの新年度についてはしっかりされているのだろうと思いますけれど、もう1回気を締めて、取り組んでもらいたいなと思います。

(伊藤会長) 4年度の事業単位への変更等については、庁内では既に共有をされているのでしょうか？

(小谷主幹) 新しい評価シートと事務事業要領というのを配っていますので、共有できています。

(伊藤会長) 同じ話ですが、やらされ感にならないようにしなくては行かず、例えば今、たぶんもう発注をかけているのであれば、時々途中で意見を聞いてみるとかですね、これ今作っていてどうだとかですね、僕はやはり廣谷さんのような立場の方って貴重で、昼めし食いながらだとか、飲みながらそういう話をちょこちょこ聞いて、それを今途中であっても何か変えられるんだったら、改善に向けていこうにした方がいいのではないかなと思います。これはとても難しく、行政ってとても企画財政系が強くて、有無言わず発注かけて、やらせることは多くあると思うんですけど、それが満足感の向上に繋がっていないケースが多いなって思っていて、ですから次のクールは、しっかりと担当課に寄り添って、大変かもしれないけれど、やってよかったっていうのを目指すんだっていうことを、この企画財政がどんどん打ち出した方がいいのではないかなと思っています。なんかそういうことを新しく入られた廣谷さんにやっていただければいいのではないかなと思います。お願いします。

(伊藤会長) さきほど言いましたように与謝野町の負の部分の部分をしっかりと発信できる環境にあるということはとてもいいことだと思いますし、渡邊さんがずっと説明をされていた部分で、総括で変に取り繕うことなくできていませんと言える環境はとてもいいことだと思うので、その先、じゃあどう改善するかということを具体的にしていけば、これより良くなるのではないかなと思います。

(5) その他

(伊藤会長) よろしいですか。では次回のことも含めて事務局から何かあればお願いします。

(渡邊主任) 任期のことですが、7月7日で皆さんの任期が満了しますので、前もって皆さんに確認させていただきまして、京崎委員におかれましては、お仕事の都合もあり、在任のときからかなりご無理をいただいています、満了をもって退任ということになります。

(京崎委員) 業務が多忙なものでして、本当になかなか参加もできないときも多くてあまりお役に立てなかったのかなあと改めて反省はしていますが、3年間、与謝野町の中を見させていただいて思うことは、結構厳しいことも言わせていただきましたが、やはり役場というのは、やはり町民のことをまず思って業務をしていただきたいなという思いがあります。私も民間ですが採用の試験を担当してますけれど、役場の職員になったら気楽でいいのでそっちに行きますとうちを辞退する方もいます。採用するとき地域貢献がしたいから、最初は金融機関に入りたいとか言いながら、やはり大変そうなので役場の方が気楽そうだからそちらに行きますというような声を聞くので、周りからはそういう人が入ってこられてるということを少し自覚していただいて、住民のための公僕なんだというところ、そういう希望に燃えた人だけを本当は採用していただきたいのですが、住民目線でやっていただけるように、今後、また与謝野町が少しでも良くなりますように、周りから拝見させていただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。お世話になりました。

(渡邊主任) もう一点、条例上は10人以内ということなので、少なくとも5名の体制でと思っております、今人選に当たっていますが、新期になった1回目の委員会をできれば7月に行いたいと思っています。新しく引き受けていただける方のご都合も含めまして、それから事務事業評価も含めまして日程調整をさせていただきたいと思います。なお京崎委員以外の4名様は引き続きご快諾いただいたということですので、またよろしくお願いいたします。

(伊藤会長) 次は現地に行ける日程を出したいと思っておりますので、行く前提で調整をさせていただきます。

(小谷主幹) こちらで準備させていただいたのは以上です。

(伊藤会長) よろしいでしょうか。それでは、以上で今年度の第 1 回目の行革推進委員会を終了させていただきます。